

■ 概況

6/10～6/16のNYMEX・WTI先物市場は、70.29～72.15ドルの範囲で推移した。

6月17日は、米国連邦準備制度理事会（FRB）の2023年の利上げ示唆による金融引き締め観測を懸念、外国為替市場ではドル高が進行、米国株式市場では株安が進行したことから、3営業日ぶりに反落した。7月限の終値は前日比1.11ドル安の71.04ドル。

週末18日は、OPEC経済委員会が外部有識者との会合で、2021年の米のシェールオイルの増産は限定的との見方で一致したとの報道があり、反発した。ただ、前日の利上げ観測に関連し、インフレ加速があれば2022年にも利上げにしろとのセントルイス連銀総裁の発言が上値を抑えた。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比8基増の373基。7月限の終値は前日比0.60ドル高の71.64ドル。

週明け21日は、18日のイラン大統領選挙で反米保守強硬派のライシ氏が当選したことで、イラン原油輸出再開が遠のいたとの観測から、大幅続伸した。また、バンクオブアメリカの2022年プレント原油100ドル予想、米国株式市場の大幅上昇も、先物原油の上昇要因となった。7月限の終値は前日比2.02ドル高の73.66ドル。

22日は、OPECプラスの8月以降の減産緩和観測が広まり、前日までの高値による利益確定売り相まって、3営業日ぶりに反落した。7月限の終値は0.60ドル安の73.06ドル。

23日は、米国エネルギー情報局（EIA）の米国石油在庫統計で、原油が前週比760万バレル減と市場予想を大きく上回る減少、ガソリンも290万バレル減と市場予想に反する減少となり、反発した。ただ、OPECプラスの8月以降の減産緩和と

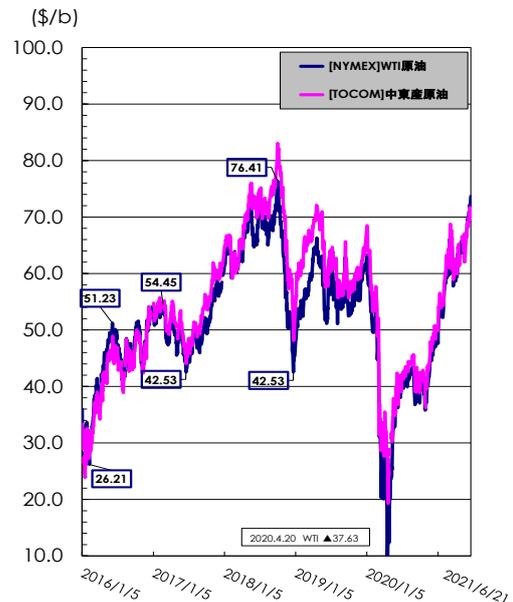
大の観測が下押し要因となったが、この日から期近物となった8月限の終値は前日比0.23ドル高の73.08ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）は、6月10日～16日の間70.20～73.00ドルの範囲で推移した。6月17日72.30ドル、18日70.80ドル、21日72.00ドル、22日73.10ドル、23日73.40ドルと推移した。

為替は6月10日～16日の間109.46～110.16円の範囲で推移した。6月17日110.79円、18日110.33円、21日110.25円、22日110.28円、23日110.74円で推移した。

そのような中で、6月21日時点の小売価格は、ガソリンが前週（6月14日）比1.1円の値上がり、軽油も同1.0円の値上がり、灯油は同14円の値上がり（18歳ベース）だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は29週連続の値上がりだった。この週（6月第4週）の原油コストは値上りし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.0円の引き上げとなった模様。

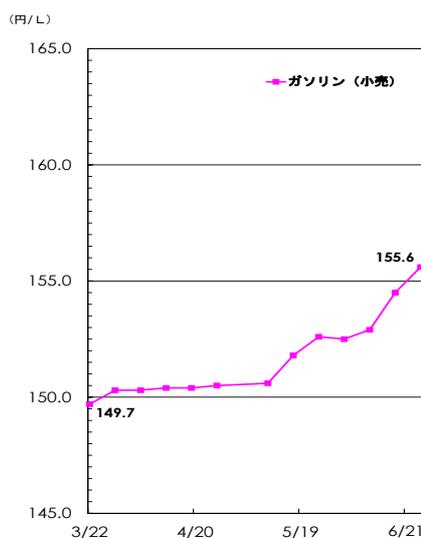
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/13～6/19	2,379 ▼ -60	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	61.8 ▼ -1.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/19	11,075 ▲ 278	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	6/21	70.47 ▲ 0.21	▲ 29.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/21	73.66 ▲ 2.78	▲ 33.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	66.16 ▲ 1.30	▲ 41.20
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,429 ▲ 1,025	▲ 28,619
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.17 ▼ -0.31	▼ -2.10
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/21	111.25 ▼ -0.44	▼ -3.48



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/13 ~ 6/19	889 ▲ 82	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	785 ▲ 6	▲ -	
	輸出	"	39 ▲ 39	▲ -	
	在庫	6/19	2,365 ▲ 65	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/15 ~ 6/21	65.1 ▲ 0.7	▲ 27.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/15 ~ 6/21	65.1 ▲ 3.1	▲ 26.1
		(TOCOM/中部)	6/21	64.0 ▲ 0.8	▲ 24.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/21	155.6 ▲ 1.1	▲ 24.7	

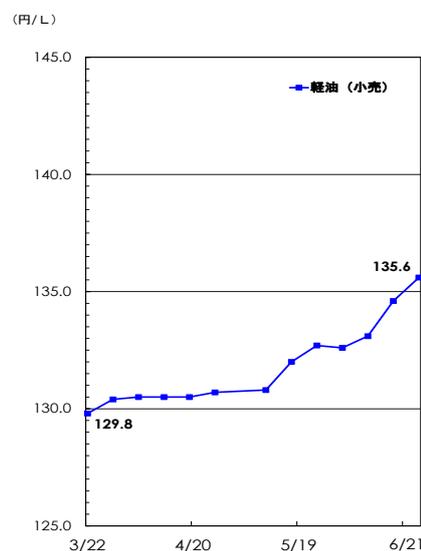
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

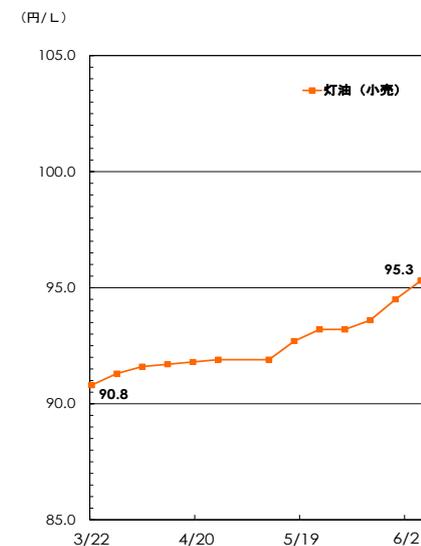
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/13 ~ 6/19	581 ▼ -41	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	546 ▼ -54	▲ -	
	輸出	"	36 ▼ -63	▲ -	
	在庫	6/19	1,888 ➡ 0	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/15 ~ 6/21	66.7 ▲ 0.4	▲ 26.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/15 ~ 6/21	67.5 ▲ 0.2	▲ 22.1
		(TOCOM/中部)	6/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/21	135.6 ▲ 1.0	▲ 24.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/13 ~ 6/19	148 ▲ 49	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	57 ▼ -9	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/19	1,695 ▲ 91	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/15 ~ 6/21	66.6 ▲ 0.6	▲ 27.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/15 ~ 6/21	62.1 ▲ 1.0	▲ 24.7
		(TOCOM/中部)	6/21	64.5 ➡ 0.0	▲ 26.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/21	95.3 ▲ 0.8	▲ 17.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月23日のNYMEXのWTI先物原油は反発した。米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油は前週比760万バレル減と市場予想(390万バレル減)を大きく上回る取り崩しとなり、5週連続の減少となり、ドライブシーズンを迎えたガソリンも290万バレル減と市場予想(90万バレル増)に反する減少だった。ただ、7月1日開催予定のOPECプラスの合同閣僚監視委員会(JMMC)で、8月以降も減産緩和の拡大が予想されることで、上値は抑えられた。この日から期近物となった8月限の終値は前日比0.23ドル高の73.08ドル、9月限の終値は0.31ドル高の72.36ドル。

EIAによると、6月21日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.9セント値下がりの1ガロン3.060ドル(89.8円/ℓ)、ディーゼルは同0.1セント値上がりの3.287ドル(96.5円/ℓ)となった。ガソリンは4週ぶりの値下がり、ディーゼルは8週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年6月13日～6月19日に休止したトッパー能力は95.1万バレル/日で、前週に対して20.1万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は237.9万klと、前週に比べ6.0万kl減少。前年に対しては3.6万klの減少。トッパー稼働率は61.8%と前週に対して1.6ポイントの減少、前年に対しては0.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/10.2%増、ジェット/3.8%減、灯油/49.5%増、軽油/6.5%減、A重油/24.7%減、C重油/50.6%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比1.7万kl減)。軽油の輸出は3.6万kl(前週比6.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリンが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、軽油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は78.5万kl(対前週0.8%増)と2週振りで増加した。ジェット0.4万kl(対前週93.2%減)、灯油5.7万kl(対前週13.2%減)、軽油54.6万kl(対前週9.2%減)、A重油16.2万kl(対前週14.5%減)、C重油14.1万kl(対前週29.6%減)。

(単位:千kl)

	今週 (6/13 ~ 6/19)	前週 (6/6 ~ 6/12)	前週比	
ガソリン	785	779	▲ 6	(1%)
ジェット燃料	4	61	▼ -57	(-93%)
灯油	57	66	▼ -9	(-14%)
軽油	546	600	▼ -54	(-9%)
A重油	162	190	▼ -28	(-15%)
C重油	141	200	▼ -59	(-30%)
合計	1,695	1,896	▼ -201	(-11%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月19日時点の在庫は、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては灯油、A重油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは236.5万kl、前週差6.5万kl増。前年に対しては68.6万kl多い。

灯油は169.5万kl、前週差9.1万kl増。前年に対しては6.0万kl少ない。

軽油は188.8万kl、前週差0.0万kl増。前年に対しては45.2万kl多い。

A重油は75.6万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては2.1万kl少ない。

C重油は194.8万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては7.4万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (6/19)	前週 (6/12)	前週比	
ガソリン	2,365	2,300	▲ 65	(3%)
ジェット燃料	788	749	▲ 39	(5%)
灯油	1,695	1,604	▲ 91	(6%)
軽油	1,888	1,888	▶ 0	(0%)
A重油	756	781	▼ -25	(-3%)
C重油	1,948	1,928	▲ 20	(1%)
合計	9,440	9,250	▲ 190	(2.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月15日～21日の指標原油価格は前週(6月8日～14日)比で値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週(6/24～6/30)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.0円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月15日～21日の製品スポット市況は、6月8日～14日平均と比べ、全ての油種、全ての取引で、値上がりした。

直近(6/15～6/21)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。直近週(6/15～6/21)において、ガソリンは118～119円台で値上がり、灯油は66円台で値上がり後横ばい、軽油は66～67円台で値上がり後わずかに値下がりし横ばいで推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(6/15～6/21)に、前週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は0.7円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(6/15～6/21)に、ガソリンは119～120円台で値上がり後わずかに値下がり、灯油は63～64円台で値上がり後値下がり、軽油は67～68円台で値上がり後わずかに値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは3.1円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。先物価格は、同期間(6/15～6/21)に、ガソリン118～119円台で値上がり後値下がり、灯油61～62円台で値上がり後大きく値下がり、軽油67～68円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (6/15～6/21)	前週 (6/8～6/14)	前週比
	レギュラー	65.1	64.4
灯油	66.6	66.0	▲ 0.6
軽油	66.7	66.3	▲ 0.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (6/15～6/21)	前週 (6/8～6/14)	前週比
	レギュラー	65.1	62.0
灯油	62.1	61.1	▲ 1.0
軽油	67.5	67.3	▲ 0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/15～6/21実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.7	▲ 3.1	▲ 1.9
灯油	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 0.8
軽油	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.3
A重油	▲ 0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(6月14日)比1.1円高の155.6円、軽油も同1.0円高の135.6円、灯油は18%ペースで同14円高の1,715円(1%ペースでは同0.8円高の95.3円)。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は29週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは46都道府県、横ばいはなし、値下がり1県だった。全国最安値は149.7円の徳島県(同1.7円高)、その次に安かったのは150.8円の埼玉県(前週比1.0円高)、他方、最高値は164.2円の長崎県(同1.5円高)だった。最も値上がりしたのは同2.9

円高の分県(161.8円)で、横ばいはなし、値下がりしたのは同0.5円安の佐賀県(155.8円)だった。

今週(6月15日～21日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(6月24日～30日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.0円の値上げとなった模様。次回調査時(6月28日)のガソリンの小売価格は値上がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/21)	前週 (6/14)	前週比	直近高値
レギュラー	155.6	154.5	▲ 1.1	08/8/4 185.1
灯油	95.3	94.5	▲ 0.8	08/8/11 132.1
軽油	135.6	134.6	▲ 1.0	08/8/4 167.4

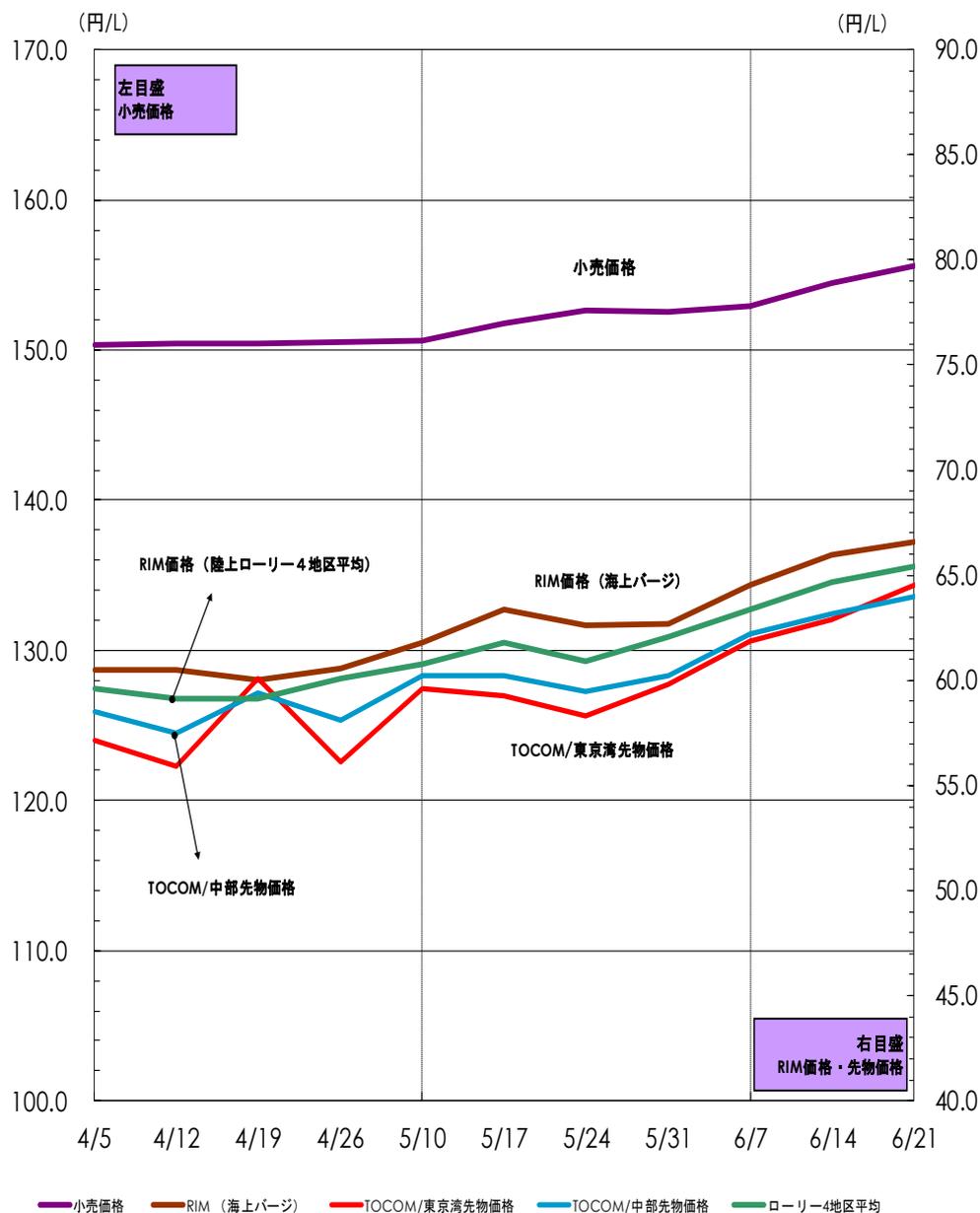
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/4/5 ~ 2021/6/21)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2021第13号)の公表は、7/2(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。